

・全世界:新型コロナウイルスの流行状況

新型コロナウイルスの感染者数は 10 月になり世界全体で減少傾向にあります(WHO Corona virus disease 2021-10-19)。しかし、ヨーロッパではロシアや東欧で感染者数が増加しており、予防対策の強化がとられています。また、英国やドイツなどでも感染者が増加傾向にあります。11 月以降、北半球の温帯地域は冬を迎えることで、世界的な流行再燃が危惧されています。これを阻止するため、欧米諸国などではワクチンの追加接種が始まりました。

日本では第 5 波が収束し、10 月末からは多くの予防措置が解除されます。この後、海外渡航に関する制限も緩和されることが予想されており、政府の発表を注視していく必要があります。

・全世界:季節性インフルエンザの流行

北半球の温帯地域で B 型インフルエンザの患者数が昨年よりも増えています(WHO Influenza 2021-10-11)。また、中米、熱帯アフリカ、南アジアなどの熱帯地域でも、B 型の患者が散発しています。ヨーロッパではクロアチアで A(H3)型の小規模な流行が起きている模様です(ECDC Communicable disease threat 2021-10-22)。今後、北半球の温帯地域でインフルエンザの流行が拡大するかは不明ですが、新型コロナの流行と重なることを避けるため、本格的な冬になる前にインフルエンザワクチンの接種を受けておくことを推奨します。

・アジア:中国で H5N6 型鳥インフルエンザ患者が増加

中国では H5N6 型の鳥インフルエンザ患者が増加しており、今年 10 月中旬までに患者数が 24 人にのぼっています(Outbreak News Today 2021-10-18)。ここ 1 か月間では江西省、湖南省などで 4 人の患者が発生し、いずれも重症でした。H5N6 型の感染者は中国などで 2014 年から 48 人確認されており、その半数が今年発生しています。患者の大多数は市場などで家禽類との接触歴がありました。

・アジア:インド南部でジカウイルスの流行が発生

インド南部のケララ州で 7 月にジカウイルス感染症の患者が初めて確認されました(WHO outbreak

news 2021-10-14)。その後、患者周囲の住民調査などで 50 人以上の感染が明らかになっていますが、小頭症の発生はみられていません。ジカウイルス感染症は蚊が媒介するウイルス疾患で、妊婦が感染すると胎児に小頭症などを起こすことがあります。インドでは北部での流行が既に確認されていますが、南部では今回の報告が初めてになります。

・アフリカ: コンゴでのエボラ出血熱と髄膜炎菌感染症の流行

コンゴ民主共和国の北東部にある北キブ州で、10 月にエボラ出血熱の患者が 5 人発生し、3 人が死亡しました(WHO outbreak news 2021-10-10, WHO Africa 2021-10-18)。この地域では今年 2 月にも流行が発生しており、5 月に終息宣言が出されたばかりでした。

また、同国北部のキサングニ周辺では 9 月から髄膜炎菌感染症の大規模な流行が発生しています(Outbreak News Today 2021-10-12)。10 月初旬までに約 1400 人の患者が発生し、192 人が死亡しました。この病気は飛沫感染を起こすもので、予防にはワクチン接種が有効です。

・北米: アフガニスタンからの入国者に麻疹患者が多発

米国のバージニア州で麻疹患者が 20 人発生しました(Outbreak News Today 2021-10-12)。いずれもアフガニスタンからの入国者で二次感染は起きていません。アフガニスタンでは麻疹などのワクチン接種が十分に行われおらず、流行が続いています。最近の政情不安で同国から海外に避難する人も増えていますが、麻疹など健康面に関する注意が必要です。